

令和7年度 第2回 川西市地域公共交通会議

次第

日時 令和7年10月8日（水）

午後2時00分～4時00分

場所 川西市役所 7階大会議室

1. 開会

2. 議事

（1）川西市公共交通計画の令和6年度実績の評価について【協議】（資料1-1, 1-2）

（2）川西市公共交通計画の令和7年度進捗状況について【報告】（資料2）

（3）地域の移動課題対策支援事業（北陵地域）（資料3-1, 3-2）
支援地区の決定について【協議】

（4）地域の移動課題対策支援事業（牧の台地域）（資料4）

①部会の進捗状況報告【報告】

②令和8年4月以降の評価指標の変更について【協議】

3. その他

4. 閉会

令和7年度 第2回 川西市地域公共交通会議 出席者名簿

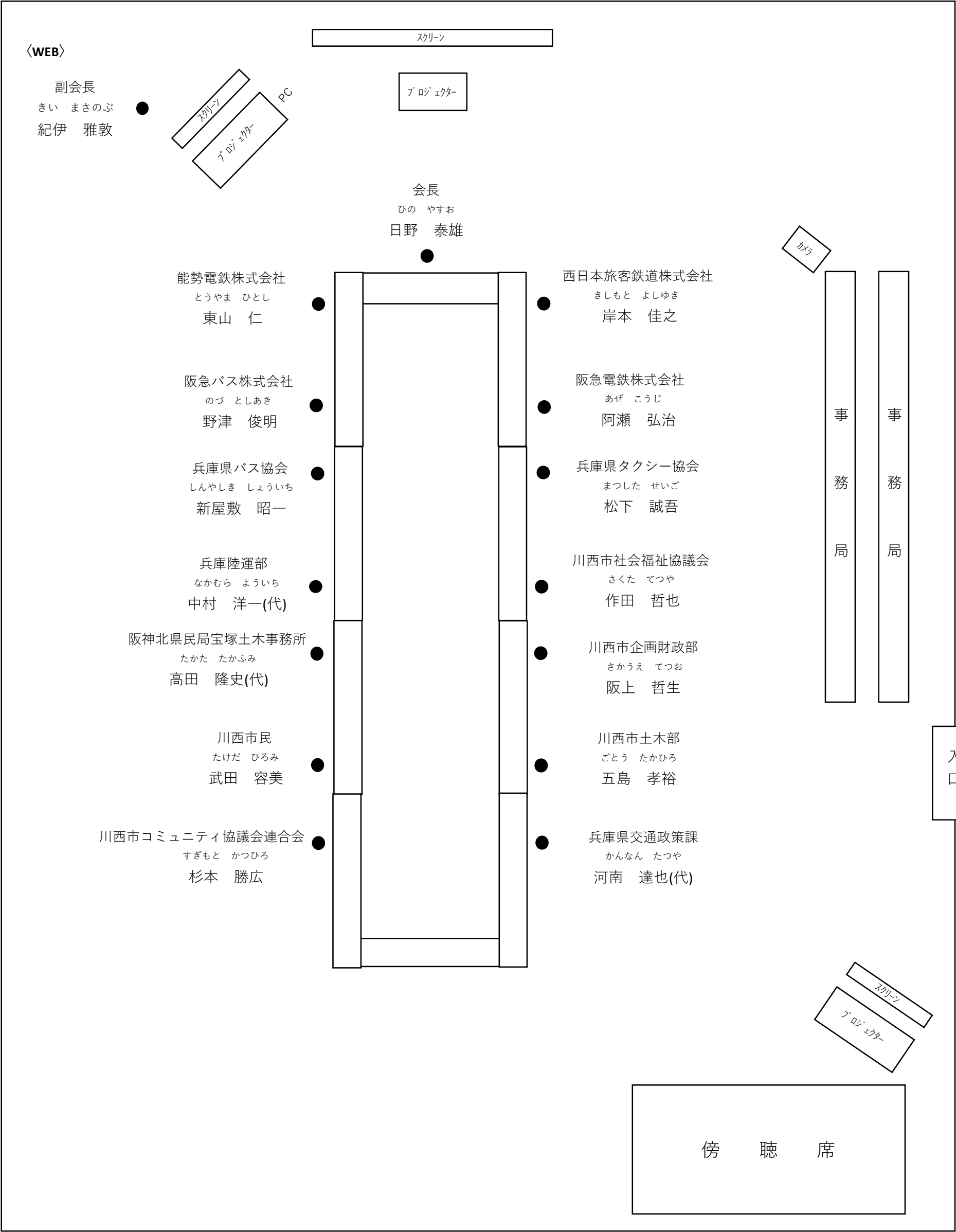
委員

構成団体	所属	役職	構成員		出席者
大阪市立大学		名誉教授	日野 泰雄	ひの やすお	同左
大阪大学大学院	工学研究科 環境エネルギー工学専攻 共生環境デザイン学講座・共生都市計画学領域	教授	紀伊 雅敦	きい まさのぶ	同左 (web)
西日本旅客鉄道株式会社	近畿統括本部 兵庫支社	課長	岸本 佳之	きしもと よしゆき	同左
阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 沿線まちづくり推進部	部長	阿瀬 弘治	あぜ こうじ	同左
能勢電鉄株式会社	鉄道事業部	副部長	東山 仁	とうやま ひとし	同左
阪急バス株式会社	自動車事業本部営業企画部(地域公共交通担当) 兼 新モビリティ推進部	部長	野津 俊明	のづ としあき	同左
公益社団法人 兵庫県バス協会		専務理事	新屋敷 昭一	しんやしき しょういち	同左
一般社団法人 兵庫県タクシー協会 株式会社フクユ		代表取締役	松下 誠吾	まつした せいご	同左
兵庫県交通運輸産業労働組合協議会	阪神地域協議会	副執行委員長	石崎 宏司	いしざき こうじ	欠席
川西市コミュニティ協議会連合会 北陵コミュニティ協議会		会長	杉本 勝広	すぎもと かつひろ	同左
社会福祉法人 川西市社会福祉協議会		常務理事	作田 哲也	さくた てつや	同左
川西市民		—	武田 容美	たけだ ひろみ	同左
国土交通省	神戸運輸監理部 兵庫陸運部 輸送部門	首席運輸企画専門官	木原 健太	きはら けんた	中村 洋一
兵庫県	阪神北県民局 宝塚土木事務所	所長	志茂 大輔	しも だいすけ	高田 隆史
兵庫県川西警察署	交通課	課長	片岡 篤	かたおか あつし	欠席
川西市	企画財政部	部長	阪上 哲生	さかうえ てつお	同左
川西市	土木部	部長	五島 孝裕	ごとう たかひろ	同左

オブザーバー

兵庫県	兵庫県土木部 交通政策課	副課長 兼 地域交通班長	小玉 嗣人	こだま つぐと	河南 達也
-----	-----------------	--------------	-------	---------	-------

令和 7 年度 第 2 回 川西市地域公共交通会議 配席図



＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

川西市公共交通計画の評価等結果（令和6年4月～令和7年3月）

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本方針1	【R13年度】 市民それぞれのニーズにあった公共交通を便利に使うことができる	各公共交通の利便性に満足している市民の割合 【基準値（R4）】 JR：71.9% 阪急電鉄：80.2% 能勢電鉄：72.2% 阪急バス：53.6% タクシー：35.7% 【R9目標値】 JR：76.0% 阪急電鉄：80.2% 能勢電鉄：73.5% 阪急バス：56.0% タクシー：38.0% 【R13目標値】 JR：80.0% 阪急電鉄：80.2% 能勢電鉄：75.0% 阪急バス：60.0% タクシー：40.0%	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実 ・安全対策の推進 ・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置 ・渋滞・違法駐車対策の推進 ・タクシーの利便性向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・隣接自治体との連携推進	市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない
		自家用車よりも公共交通を利用することが多い市民の割合 【基準値（R4）】 45.1% 【R9目標値】 52.5% 【R13目標値】 60.0%		市民実感調査	【達成状況】 48.5%(R5)（参考） 46.9%(R6) 【分析】 R5年度は前年度に比べて上昇したものの、R6年度は減少したが、R4年度の基準値からは上昇しているため、取組の効果が出ているものと考えられる。	MMや利用促進活動を継続して行っているため、自家用車よりも公共交通を利用することが多い市民の割合は増加傾向にある。目標達成に向けて継続的にMMや利用促進活動に取り組み、より一層効果的な取組を検討していく。	
	【R9年度】 自分たちのまちの移動手段として公共交通をとらえられる意識の醸成	公共交通を利用している・利用すると答えた市民の割合 【基準値（R4）】 62.4% 【R9目標値】 65.0% 【R13目標値】 65.0%	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実	市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない
	【R9年度】 市民生活を支えるための公共交通サービスの維持・向上	阪急川西能勢口駅の通勤・通学ラッシュ時間帯の平均運行本数（平日） 【基準値（R4）】 15本/時間 【R9目標値】 15本/時間 【R13目標値】 15本/時間	・地域の移動課題対策支援事業 ・モビリティ・マネジメント（MM）の充実 ・安全対策の推進 ・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置 ・渋滞・違法駐車対策の推進 ・タクシーの利便性向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・隣接自治体との連携推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 15本/時間（R5）（参考） 15本/時間（R6） 【分析】 運行本数が維持されており、このまま推移すれば目標達成可能。	目標達成に向けて運行本数が維持されているが、人口構造の変化や働き方の多様化などの影響に対応できるよう、引き続き、MMや利用促進に取り組んでいく。	
		JR川西池田駅の通勤・通学ラッシュ時間帯の平均運行本数（平日） 【基準値（R4）】 13本/時間 【R9目標値】 13本/時間 【R13目標値】 13本/時間		交通事業者提供資料	【達成状況】 13本/時間（R5）（参考） 14.5本/時間（R6） 【分析】 ダイヤ改正により微増。このまま推移すれば目標達成可能。		
		能勢電鉄の通勤・通学ラッシュ時間帯の平均運行本数（平日） 【基準値（R4）】 10本/時間 【R9目標値】 10本/時間 【R13目標値】 10本/時間		交通事業者提供資料	【達成状況】 10本/時間（R5）（参考） 10本/時間（R6） 【分析】 運行本数が維持されており、このまま推移すれば目標達成可能。		
		阪急バスにおける1日の往復本数が5本以上の割合（平日） 【基準値（R4）】 60.5% 【R9目標値】 60.5% 【R13目標値】 60.5%		交通事業者提供資料	【達成状況】 61.1%(R5)（参考） 52.6%(R6) 【分析】 減便等の影響により減少した。	利用者の減少や運転士不足による減便・廃便の影響で運行本数が減少している。 MMや利用促進活動に継続して取り組みつつ、事業者連絡会を活用して運転士確保や利用者増加に繋がる効果的な施策を検討していく。	

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本方針2	【R13年度】 市民が公共交通に慣れ親しみ、何気なく出かけたくなる	川西能勢口駅、JR/川西池田駅の1日当たりの利用者数 【基準値 (R4)】 阪急電鉄+能勢電鉄：74,243人 JR：33,596人 【R9目標値】 阪急電鉄+能勢電鉄：80,978人 JR：35,271人 【R13目標値】 阪急電鉄+能勢電鉄：80,978人 JR：35,271人		交通事業者提供資料	【達成状況】 阪急電鉄+能勢電鉄：79,033人(R5) (参考) 76,995人(R6) JR：34,602人(R5) (参考) 35,374人(R6) 【分析】 阪急電鉄+能勢電鉄は、R5年度は前年に比べて上昇したものの、R6年度は前年に比べて減少した。「妙見の森」がR5年12月に営業終了したことに伴う駆け込み需要が影響したと考えられる。 JRは、R5、R6ともに前年に比べて増加した。コロナ禍からの回復が要因であると考えられる。	目標の達成に向けて順調な推移のため、継続してMMや利用促進活動に取り組んで行く。	
		山下駅、畦野駅、多田駅、鼓滝駅の1日当たり利用者数 【基準値 (R4)】 山下駅：5,555人 畦野駅：7,019人 多田駅：6,157人 鼓滝駅：4,867人 【R9目標値】 山下駅：5,827人 畦野駅：7,019人 多田駅：6,544人 鼓滝駅：4,872人 【R13目標値】 山下駅：5,827人 畦野駅：7,019人 多田駅：6,544人 鼓滝駅：4,872人	<ul style="list-style-type: none">・地域の移動課題対策支援事業・モビリティ・マネジメント (MM) の充実・公共交通利用者増に向けた取組の実施・福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置・渋滞・違法駐車対策の推進・隣接自治体との連携推進・EVバスの導入等の推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 山下駅：5,678人(R5) (参考) 5,582人(R6) 畦野駅：7,061人(R5) (参考) 6,698人(R6) 多田駅：6,437人(R5) (参考) 6,232人(R6) 鼓滝駅：4,943人(R5) (参考) 5,055人(R6) 【分析】 コロナ禍以降若干の増加傾向はみられたものの、現状は増減はあるが、概ね横ばいの状態である。		
	【R13年度】 市民が自家用車に過度に依存せず、地球環境にやさしい移動手段を選択できる	温室効果ガス排出量の削減率 (H25年度比) 【基準値 (R4)】 31.0% 【R9目標値】 43.0% 【R13目標値】 50.0%		環境政策課提供資料	【達成状況】 32.0%(R5) (参考) 25.0%(R6) 【分析】 国の自治体別排出量カルテにおける、令和6年度公表分(令和4年度実績)は、令和5年度(令和3年度実績)を7ポイント下回っている。理由として、新型コロナウイルス感染症の収束にともない、経済活動が再開されたことが要因の一つと考えられる。	令和13年度に温室効果ガス排出量の削減率(平成25年度比)50%の目標達成に向けて、削減率は毎年度増加していくことが望ましいが、経済活動の再開などにより、令和6年度は前年度を下回った。 温室効果ガス排出量の削減には、市民、事業者、市各々は各々が自発的に活動するとともに、互いに情報を共有し、連携し合うことが重要であることから、市は、そのプラットフォームの形成に取り組む。	
	【R9年度】 公共交通を使った外出機会の促進	能勢電鉄の1日当たり利用者数 【基準値 (R4)】 87,950人/日 【R9目標値】 91,967人/日 【R13目標値】 91,967人/日	<ul style="list-style-type: none">・地域の移動課題対策支援事業・モビリティ・マネジメント (MM) の充実・公共交通利用者増に向けた取組の実施・福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信・公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置・渋滞・違法駐車対策の推進・隣接自治体との連携推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 91,974人/日(R5) (参考) 88,528人/日(R6) 【分析】 R5年度は前年に比べて上昇したものの、R6年度は前年に比べて減少した。「妙見の森」がR5年12月に営業終了したことに伴う駆け込み需要が影響したと考えられる。	コロナ禍以降、能勢電鉄の利用者数は着実に増加しているが目標達成に向けてMMや利用促進活動に継続して取り組んでいく。	
		阪急バスの1日当たり利用者数 【基準値 (R4)】 41,753人/日 【R9目標値】 45,597人/日 【R13目標値】 45,597人/日		交通事業者提供資料	【達成状況】 41,784人/日(R5) (参考) 41,638人/日(R6) 【分析】 減便等の影響により、利用者数の減少が続いている。	減便や廃便等の影響で利用者数の増加が厳しい状況である。継続してMMや利用促進活動に取り組んでいく。	
	【R9年度】 公共交通の脱炭素化	市内を運行するEVバス等低公害車の総台数 【基準値 (R4)】 0台 【R9目標値】 6台 【R13目標値】 10台	<ul style="list-style-type: none">・EVバスの導入等の推進	交通事業者提供資料	【達成状況】 4台(R5) (参考) 4台(R6) 【分析】 阪急バスによるEVバスの導入により基準値からは増加しているものの、R6年度は追加での導入がなかったため横ばいとなっている。	事業者の意向等を確認しつつ、脱炭素化に向けた取組を進める。	

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本方針3	【R13年度】 自家用車に依存しなくても、移動に困ることなく、誰もが安心して暮らせる	日常の移動に課題を感じている市民の割合 【基準値（R4）】 29.0% 【R9目標値】 27.0% 【R13目標値】 25.0%	・地域の移動課題対策支援事業 ・タクシーの利用環境向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援	市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない
	【R9年度】 交通空白地等への持続可能な移動手段の確保	交通空白地の居住人口 【基準値（R2）】 6,462人 【R9目標値】 5,748人 【R13目標値】 5,030人	・地域の移動課題対策支援事業 ・タクシーの利用環境向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入	国勢調査の数値等	—	—	R7国勢調査の数値やメッシュ人口データ等を基にR9年度に評価予定
	【R9年度】 移動課題がある人の移動手段の確保	外出の際の移動を支援してほしい高齢者や要支援者の割合 【基準値（R4）】 5.9% 【R7目標値】 5.9% 【R13目標値】 5.9%	・地域の移動課題対策支援事業 ・タクシーの利用環境向上に向けた検討 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入 ・地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援	介護予防・日常生活圏ニーズ調査	—	—	介護予防・日常生活圏ニーズ調査をR7年度に実施予定のため評価しない
		タクシーの利便性に満足している市民の割合 【基準値（R4）】 35.7% 【R9目標値】 38.0% 【R13目標値】 40.0%		市民交通行動調査	—	—	市民交通行動調査をR9年度に実施予定のため評価しない

（記載に当たったの留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

令和6年度 川西市公共交通計画の評価（施策の進捗状況）（令和7年3月末時点）

（○：実施 △：検討したが実施に至らず）

基本方針1 誰もが移動しやすい公共交通サービスの整備**地域の移動課題対策支援事業** （【基本方針2】【基本方針3】にも関連） ○**【実施内容】**

- ・東谷地域において、訪問型支えあい活動事業を活用したボランティア輸送導入に向けた技術的支援を実施。
- ・緑台・陽明地域において、現在取組中のボランティア輸送「お出かけ支援」の拡充に向けて技術的支援を実施。
- ・牧の台地域において、阪急バス平野山下線・大和団地線の持続可能な運行に向けて、市長タウンミーティングを実施。

【今後の課題や取組内容】**【課題】**

- ・公共交通の必要性について、地域の意識を醸成することが課題である。
- ・各地域の移動課題を明確にし、解決に向けて取組を進めることが課題である。

【取組】

- ・既に取り組を開始している東谷、緑台・陽明、牧の台地域は具体的な取組を支援する。
- ・移動課題の解決を希望する新たな地域への支援を開始する。

モビリティ・マネジメント（MM）の充実 （【基本方針2】にも関連） ○**【実施内容】**

- ・小学生向けMMを7回実施（「川西市とのせでん」、「交通すごろく」、「バスの乗り方〇×クイズ」など）。
- ・小学校4・5・6年生向け阪急バスの副教材を市内各小学校へ配布。
- ・地域主体のイベントでバスの乗り方教室などのMMを実施（緑台・陽明地域・牧の台地域）。
- ・市民課窓口で転入者に対し、阪急バスのノリセツを配布。

【今後の課題や取組内容】**【課題】**

- ・小学生から高齢者までの全世代を対象としたモビリティ・マネジメントをいかにして広げていくかが課題である。

【取組】

- ・学校MM、住民MMには継続して取り組む。
- ・各地域や学校教育等で自主的に取り組んでいただける方法を模索する。
- ・阪急バスの副教材を活用した授業の実現をめざし関係各所との調整を実施する。

安全対策の推進 ○**【実施内容】**

- ・能勢電鉄 平野駅～一の鳥居駅間で豪雨対策工事を実施。（国・県・市補助あり）
- ・能勢電鉄 小戸第1踏切道の警報器の更新（閃光灯両面化）。（能勢電鉄単独事業）

【今後の課題や取組内容】**【課題】**

- ・基幹公共交通が安心・安全に運行できるよう計画的に対策を実施していくことが課題である。

【取組】

- ・引き続き、能勢電鉄(株)は主体的に減災対策に取り組み、市は財政支援を行う。

公共交通の維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置（【基本方針２】にも関連）	○
<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事業者の課題を把握し、解決に向けて協議を行った（合計３回開催）。 （主な課題）人員不足への対応、川西能勢口駅周辺の渋滞対策、利用促進 <p>【今後の課題や取組内容】</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各交通事業者が抱える本質的な課題の共有やそれに対する具体的な解決策への取組が課題である。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続して会議を開催し、鉄道、バス、タクシーの各交通事業者及び学識者と連携をとり課題解決を図る。 	
渋滞・違法駐車対策の推進（【基本方針２】にも関連）	○
<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 川西能勢口駅周辺に違法駐車対策のナッジ看板を３ヶ所設置。 交通安全対策連絡会議を立ち上げ、交通事故減少や渋滞・違法駐車対策への取組を関係行政機関が連携して推進する体制を構築。 <p>【今後の課題や取組内容】</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実行性のある違法駐車対策を構築し、渋滞緩和による路線バスやタクシーの定時性を確保することが課題である。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ナッジ看板設置の効果検証をしつつ、さらなる違法駐車対策に向けて、乗り越え防止柵の設置等を検討する。 	
タクシーの利用環境向上に向けた検討（【基本方針３】にも関連）	△
<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者連絡会において、利用環境向上に向けたサブスク運賃の導入の実現可否など現在の課題を共有。 <p>【今後の課題や取組内容】</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> タクシーの利用環境を向上し、交通空白地・不便地の移動手段を確保することが課題である。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者連絡会を活用し、利用環境の向上に向けた取組を検討する。 	
ユニバーサルデザインタクシーの導入（【基本方針３】にも関連）	△
<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 <p>【今後の課題や取組内容】</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動が困難な方の移動手段を確保することが課題である。 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者連絡会を活用し、ユニバーサルデザインタクシーの導入に向けた課題を整理する。 	
隣接自治体との連携推進（【基本方針２】にも関連）	○
<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 能勢電鉄主催の「公共交通利用に関する連絡会」において、能勢電鉄・猪名川町・豊能町との情報交換や課題の 	

共有等、連携推進を図ることができた。

【今後の課題や取組内容】

【課題】

・隣接自治体と公共交通の課題解決に向けた連携が課題である。

【取組】

・市域をまたがる公共交通の持続可能な運行について、交通事業者を交えて連携を深めていく。

基本方針2 環境にやさしくまちの賑わい向上につながる公共交通の利用環境の整備

公共交通利用者増に向けた取組の実施

○

【実施内容】

・市内イベントに公共交通で来場された方に対して、帰り分の能勢電鉄と阪急バスの無料乗車券を配布。

『秋の全国交通安全フェア 2024』

阪急バス：20 枚 能勢電鉄：26 枚

『川西フェスタ 2024』

阪急バス：80 枚 能勢電鉄：100 枚

『阪急バスグループお客様感謝 Day2024&都市緑化祭』

阪急バス：184 枚 能勢電鉄：270 枚

・交通事業者において、利用者増に向けた取組を実施

<阪急バス>

- ・「バス停フォトラリー！」の実施：R6/3/23～5/6
- ・「夏バスわくわくキャンペーン」の実施：R6/7/20～8/31
- ・「トムとジェリー×阪急電車」ラッピングバスの運行・1 日乗車券の発売：R6/8/23～R7/3/25
- ・阪急バスの乗り方説明パンフレット「ノリセツ」製作・配布：R6/10
- ・能勢電鉄ダイヤ改正に伴う時刻調整：R7/2/22
- ・モビリティ人材育成事業の実施

多田グリーンハイツ「おさんぽマルシェ」開催時における利用促進施策についてのワークショップを開催
：R6/9/28、10/19

ワークショップのアイデアにより、おさんぽマルシェ当日に路線バスを無料化、バスの乗り方教室を開催
：R6/11/16

<能勢電鉄>

- ・「のせでんレールウェイフェスティバル 2024 春」の開催：R6/4/27
- ・「のせでんめぐるリアル謎解きゲーム」の開催：R6/4/26～R7/1/31
- ・「のせでん怪談電車」の開催：R6/7/1～9/30
- ・「風鈴電車《夏風にゆられて》」の運行：R6/8/4～9/5
- ・「トムとジェリー×阪急電車」のせでんオリジナルヘッドマークの掲出：R6/8/23～R7/3/27
- ・「のせでんレールウェイフェスティバル 2024 秋」の開催：R6/11/2
- ・「卒業列車” 祝電”」の運行：R7/2/21～3/31
- ・「クレジットカード等によるタッチ決済による乗車サービス」の開始：R7/3/25

<阪急電鉄>

- ・「阪急沿線観光あるき」の実施：R6/4/1～12/31
- ・「くまのがっこう×阪急電車」コラボレーション企画の実施：R6/4/24～7/8
- ・第15回「阪急ええはがきコンテスト」の実施：R6/5/1～8/30
- ・「トムとジェリー×阪急電車」コラボレーション企画の実施：R6/8/23～R7/3/27

<JR 西日本>

- ・兵庫デスティネーションキャンペーン アフターキャンペーンの開催にあわせた、ひょうご夏の体験デジタルパスの発売：R6/6/1～9/28

【今後の課題や取組内容】

【課題】

- ・市・事業者・地域が利用者を増やすための取組を継続的に実施することが課題である。

【取組】

- ・イベントでの無料乗車券の配布を継続して実施し、普段公共交通を利用しない方に公共交通を利用するきっかけを提供する。
- ・各交通事業者において、利用者増に向けた取組を継続して実施する。
- ・新たな利用促進策を事業者連絡会で検討する。

福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信

△

【実施内容】

- ・特になし。

【今後の課題や取組内容】

【課題】

- ・必要な情報や対象者を把握し、発信していくことが課題である。

【取組】

- ・「地域の移動課題対策支援事業」を進めるなかで、地域住民と協力し地域内施設等での情報発信の強化に努める。

EV バスの導入等の推進

○

【実施内容】

- ・阪急バス(株)と今後の方針を共有。

【今後の課題や取組内容】

【課題】

- ・環境に配慮した取組を進めていくことが課題である。

【取組】

- ・引き続き阪急バス(株)と連携をとり、必要に応じて EV バス導入を支援する。

基本方針3 日常生活を支える地域内交通サービスの構築

地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援（介護保険課）

○

【実施内容】

- ・地域住民が主体となり地域の実情に応じ実施している「訪問型支えあい活動」を行う団体に対し、活動に要する経費の一部を補助することで活動の継続と発展につなげる「訪問型支えあい活動支援事業」を創設。
- ・車両を利用した生活支援を実施する3地域（明峰、緑台・陽明、けやき坂）の団体に補助金を交付した。

【今後の課題や取組内容】

【課題】

- ・地域住民の主体的な移動に関する取組を支援する仕組みの構築が課題である。

【取組】

- ・令和6年度の事業実施でみえた課題をふまえ、車両を利用した生活支援の新規立ち上げや、活動継続に向けた人材や財源の確保について検討する。



川西市公共交通計画の 進捗状況報告について

施策一覧

【基本方針1】 誰もが移動しやすい公共交通サービスの整備

(※赤字は重点施策)

- ① 地域の移動課題対策支援事業 (基本方針2・3にも関連)
- ② 公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置 (基本方針2にも関連)
- ③ 渋滞・違法駐車対策の推進 (基本方針2にも関連)
 - ・ タクシーの利用環境向上に向けた検討 (基本方針3にも関連)
 - ・ ユニバーサルデザインタクシーの導入 (基本方針3にも関連)
 - ・ 隣接自治体との連携推進 (基本方針2にも関連)
 - ・ 安全対策の推進

【基本方針2】 環境にやさしくまちの賑わい向上につながる公共交通の利用環境の整備

- ④ モビリティ・マネジメント(MM)の充実 (基本方針1にも関連)
- ⑤ 公共交通利用者増に向けた取組の実施
 - ・ EVバスの導入等の推進
 - ・ 福祉施設・コミュニティ等と連携した情報発信

【基本方針3】 日常生活を支える地域内交通サービスの構築

- ・ 地域住民による訪問型支えあい活動に対する支援

①地域の移動課題対策支援事業（東谷、緑台・陽明地域）

（R6第2回会議承認事項）

・東谷コミュニティ

1. 地域の現状

- ・ 鉄道・バス路線が南北に運行
- ・ 勾配が急な地域など、交通不便地や交通空白地が多数存在
- ・ 買物や病院への移動手段がない高齢者が存在

2. 移動課題

移動課題を把握するためアンケートを地域主体で実施

<アンケート結果>

- ・ 空白地、不便地における移動手段の確保
- ・ 移動に課題がある人（高齢者や要支援者等）のニーズに合わせた移動手段の確保
- ・ 移動課題がある地域（※赤字は交通不便地・交通空白地）
黒川、一庫、東睦野、西睦野、山原、緑が丘、下財、山下、笹部、東睦野山手

3. 解決策の方向性

- ・ 訪問型支えあい活動による福祉的ボランティア輸送での解決を図る

・緑台・陽明コミュニティ

1. 課題

- ・ バス路線から離れた場所に住んでいる住民の移動手段の確保
- ・ 現在取り組み中のお出かけ支援プロジェクトの利便性・持続性の向上

2. 現在の取組状況

お出かけ支援プロジェクト	
運行主体	多田グリーンハイツ自治会
利用対象者	西友への買い物に対するお出かけ支援が必要と判断したエリアに居住する高齢者 ①65歳以上の高齢者のみの世帯 ②昼間65歳以上の高齢者のみの世帯
車両	8人乗りワゴン（車両は自治会がリース）
運転手	ボランティア
料金	無料（ただし、利用者はガソリン代の実費を負担）
利用方法	・ バス路線上での乗降は不可 ・ 事前予約制 ・ 往復利用（片道利用は禁止） ・ 指定停留所で乗降

3. 解決策の方向性

- ・ 現在すでに取り組んでいる「お出かけ支援プロジェクト」の拡充を検討
- ・ 訪問型支えあい活動による福祉的ボランティア輸送での解決を図る

12

（現在の取組状況）

・東谷コミュニティ

運行概要（予定）

※10月10日（金）より運行予定

運行主体	東谷コミュニティ支えあい交通委員会
利用対象者	東谷コミュニティ地域内に居住している ・ 介護予防要支援者 ・ 日常生活で困りごとのある高齢者等 ・ 外出支援を必要とする住民の方々
車両	5人乗り乗用車（車両は自治会がリース）
運転手	ボランティア
料金	1回あたり200円～500円 ※距離に応じて変動
その他	・ 生活支援での外出支援を行う。（単なる輸送だけではない） ・ 事前予約制 ・ 運行ルート （基本ルート）黒川⇒一庫⇒下財・山下町⇒笹部⇒山下駅 ※予約状況に応じて変動あり

・緑台・陽明コミュニティ

今後の運行概要（予定）

主体	運営主体：緑台・陽明コミュニティ協議会 運行主体：多田グリーンハイツ自治会
利用対象者	・ 1人で外出するのが困難な介護予防要支援者等 ・ 生活支援を必要とする高齢者
車両	8人乗りワゴン（車両は自治会がリース）
運転手	ボランティア
料金	1回あたり100円（実費の範囲内 ※ガソリン代・保険料・車両リース代）
利用方法	・ バス路線上での乗降は不可 ・ 予約不要、定時定路線 ・ 片道利用可能 ・ 指定停留所で乗降

②公共交通維持及び利便性向上に向けた事業者連絡会の設置

1. 概要

【目的】

各交通事業者が共通して抱える課題について解決策を検討し、解決に向けて協力して対策を講じる

【構成員】

学識経験者・市内各交通事業者・土木部交通政策課・その他事業者連絡会が特に必要と認める者

2. 開催状況

年度		日時	主な内容
R6	第1回	令和6年6月26日	各交通事業者の課題の共有 〈主な課題〉人員不足への対応、川西能勢口付近の渋滞対策、利用促進
	第2回	令和6年11月6日	第1回で共有した課題への対策の取組状況報告 〈渋滞対策〉 違法駐車削減のためのナッジ看板の設置について など 〈利用促進〉 イベント無料乗車券の配布実績報告、阪急バス副教材の活用 など 〈タクシーの利用環境向上〉 市内の配車状況、アプリの対応状況 など
	第3回	令和7年2月21日	・令和6年度の市・各交通事業者の取組結果報告 ・阪急バス運転士不足解消に向けた連携協定の締結について
R7	第1回	令和7年7月9日	・利用促進、渋滞対策、人材不足等の各課題に対しての意見交換 など

③渋滞・違法駐車対策の推進

1. 概要

違法駐車を削減し、路線バス及びタクシーの定時性を確保する

2. 実施状況

年度	実施内容	対策場所
R6	ナッジ看板の設置	川西能勢口駅周辺 (アステ川西前に1ヶ所、パルティ川西前に2ヶ所)
R7	兵庫県・警察と連携した 街頭啓発活動(月1回)	川西能勢口駅周辺

3. 今後の取組を予定している内容(※検討中)

- ・乗り越え防止柵の設置を検討中
- ・小花1丁目交差点の信号機の改良ができないか調整中

(参考) 高齢者運転免許自主返納キャンペーン

1. 概要

免許返納時に満70歳以上の川西市民の方を対象に、ICOCA5,000円分かhanica6,000円分の支給、または定期券の購入を支援(上限:15,700円分)し、高齢者の事故防止と公共交通の利用を促進。

2. 支援実績

(件)

年度	報償内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R5	ICOCA	-	91	54	40	26	37	44	45	49	56	53	76	571
R6	ICOCA	50	44	47	40	31	44	54	39	45	50	55	50	549
	定期	2	1	9	5	4	10	5	4	8	5	6	2	61
	計	52	45	56	45	35	54	59	43	53	55	61	52	610
R7	ICOCA	51	59	48	39	26								223
	hanica	25	6	12	11	13								67
	定期	14	2	7	4	3								30
	計	90	67	67	54	42								320

<定期券の内訳(R7)> ・グランドパス70(23枚)・hanica通勤定期(1枚)・能勢電鉄(4枚)・阪急電鉄(1枚)・JR西日本(1枚)
※対象定期一覧

(参考)

R5年度=ICOCA5,000円分のみ

R6年度=ICOCA5,000円分・定期券補助(上限13,400円)

R7年度=ICOCA5,000円分・hanica6,000円分・定期券補助(上限15,700円)

対象交通	定期券の種類	発着場所
阪急バス	グランドパス70	—
伊丹市営バス	普通定期券	—
阪急電鉄	普通定期券	川西能勢口駅又は雲雀丘花屋敷駅
JR西日本	普通定期券	川西池田駅又は北伊丹駅
能勢電鉄	普通定期券	沿線各駅

④モビリティ・マネジメント(MM)の充実

1. 目的

市民一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を人や社会、環境にやさしいという観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取ることができる意識づくり

2. 実施状況

		メニュー	対象学年	R6実施回数	受講者数	R7申込	R7実施	受講者数	実施主体	備考
学校MM	MM授業	①バス乗車体験	1・2年生	0	0	2	0	0	阪急バス・市	
		②川西市とのせでん	3年生以上	2	129	3	2	92	能勢電鉄・市	
		③交通すごろく	5・6年生	2	66	1	1	21	松村先生・市	
		④バス学習	5・6年生	0	0	1	1	21	阪急バス・市	
		⑤バスの乗り方〇×クイズ	1～4年生	2	132	0	0	0	市	
		⑥教員向けMM	全教員	1	4		1	20	松村先生・阪急バス 能勢電鉄・市	
		⑦無料乗車券を使った校外学習	全学年	1	—	1	0	—	阪急バス・能勢電鉄・市	
		合計	—	8	331	8	5	154	—	—
		小学校1・2・3年生向けの阪急バスの副教材を市内各小学校へ配布							阪急バス・市	8月1日の教員向けMMでワークショップを開催
住民MM		—							—	—
転入者MM		市民課窓口で転入者に対し、阪急バスのノリセツとリクルートガイドを配布							阪急バス・市	—

- ・R7年9月末時点で、小学校向けのMM授業の申込件数は8件。
(R6年度実施回数8回)
- ・阪急バスの『小学校副教材』をどう活用できるかをテーマとしたワークショップを開催。(教員や近隣自治体の交通担当職員などが参加) (参考資料Iを参照)

⑤公共交通利用者増に向けた取組の実施

1. 概要

駅周辺商業施設と連携したイベントの開催や企画乗車券の発行などを通じて公共交通の利用を促す。

2. 実施状況

実施主体	取組内容	実施時期
川西市 阪急バス 能勢電鉄	イベントに公共交通を利用し来場した人へ阪急バスと能勢電鉄の無料乗車券を配布 (配布者へのアンケート結果は参考資料2を参照) ①清和源氏まつり 阪急バス：197枚 能勢電鉄：256枚 ②川西市交通安全フェア2025 阪急バス：115枚 能勢電鉄：64枚	①R7/4/6 ②R7/9/27
阪急バス	①小学校向け副教材「未来クリエイター」の製作・配布 ②「夏バスわくわくキャンペーン」の実施 ③「星のカービィ×阪急電車」ラッピングバスの運行・バス停装飾・1日乗車券の発売 ④阪急バスの乗り方説明パンフレット「ノリセツ」製作・配布 ⑤「モビリティ人材育成事業」の実施(予定)	①R7/7 ②R7/7/19～R7/8/31 ③R7/8/22～R8/3/17(予定) ④R7/11(予定) ⑤実施予定
能勢電鉄	①「のせでんレールウェイフェスティバル2025春」の開催 ②「茜音・藍色彩と過ごすなつやすみ2025 クイズ&スタンプラリー」の開催 ③「風鈴電車《音色彩る》」の運行 ④「星のカービィ×阪急電車」のせでん号の運行 ⑤「星のカービィ×阪急電車」スタンプラリーポイント・フォトスポットの設置・1日乗車券の発売 ⑥「QRコードを活用したデジタル乗車券サービス」の開始	①R7/4/26 ②R7/7/11～9/1 ③R7/7/20～8/29 ④R7/9/2～R8/3/17(予定) ⑤R7/9/2～11/24 ⑥R7/10/1～
阪急電鉄	①「阪急沿線観光あるき」の実施 ②第16回「阪急ええはがきコンテスト」の実施 ③「星のカービィ×阪急電車」ラッピング列車「カービィ号」の運行 ④「星のカービィ×阪急電車」スタンプラリーの開催およびフォトスポットの設置	①R7/4/1～12/31 ②R7/6/6～8/29 ③R7/8/22～R8/3/17 ④R7/9/2～11/24
JR西日本	①KANSAIMaaSでのひょうごアクセス2dayパスの発売 (神戸市交通局、神戸電鉄株式会社、神戸新交通株式会社、神姫バス株式会社、公益社団法人ひょうご観光本部との連携) ②KANSAI MaaSでのJR西日本QR 2 dayパスの発売	①R7/4/11～10/30 ②R7/9/5～R8/3/30



令和7年度 地域の移動課題対策支援事業

(北陵地域)

【協議】地域内の移動課題と支援地区の決定について（北陵地域）

1.（事務局案）協議事項

北陵コミュニティ協議会を地域の移動課題対策支援事業の支援地区としたい。

なお、支援地区に決定した場合、地域協働交通検討部会を設置し、課題解決に向け支援することとする。

2.これまでの経緯

①令和7年4月16日

コミュニティ連合会において、支援希望地区を募集

②令和7年5月23日

北陵コミュニティ協議会から支援希望の申請書（資料3-2参照）受理

③令和7年7月29日

交通政策課が北陵コミュニティ協議会と協議（地域内で挙がった課題のヒアリング）

<主な課題>

- ・持続可能な路線バスのありかた（阪急バスのルート・ダイヤ・運賃など）
- ・交通空白地への対応
- ・タクシーがつかまらないことへの対策 など

3.部会員について

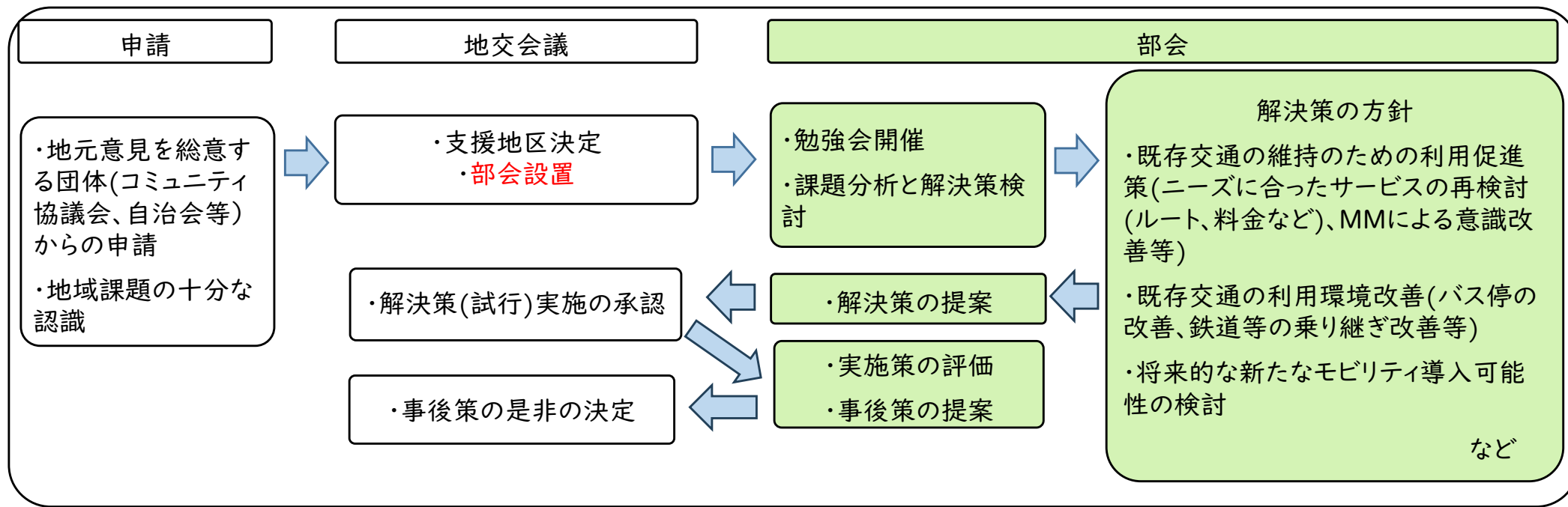
地域公共交通会議規則第8条第2項に基づき地域公共交通会議の委員の中から日野会長が以下の委員を部会員に指名予定。

学識者 : 日野会長
交通事業者: 阪急バス 野津委員
市民等 : 市民代表 武田委員
行政 : 土木部長 五島委員

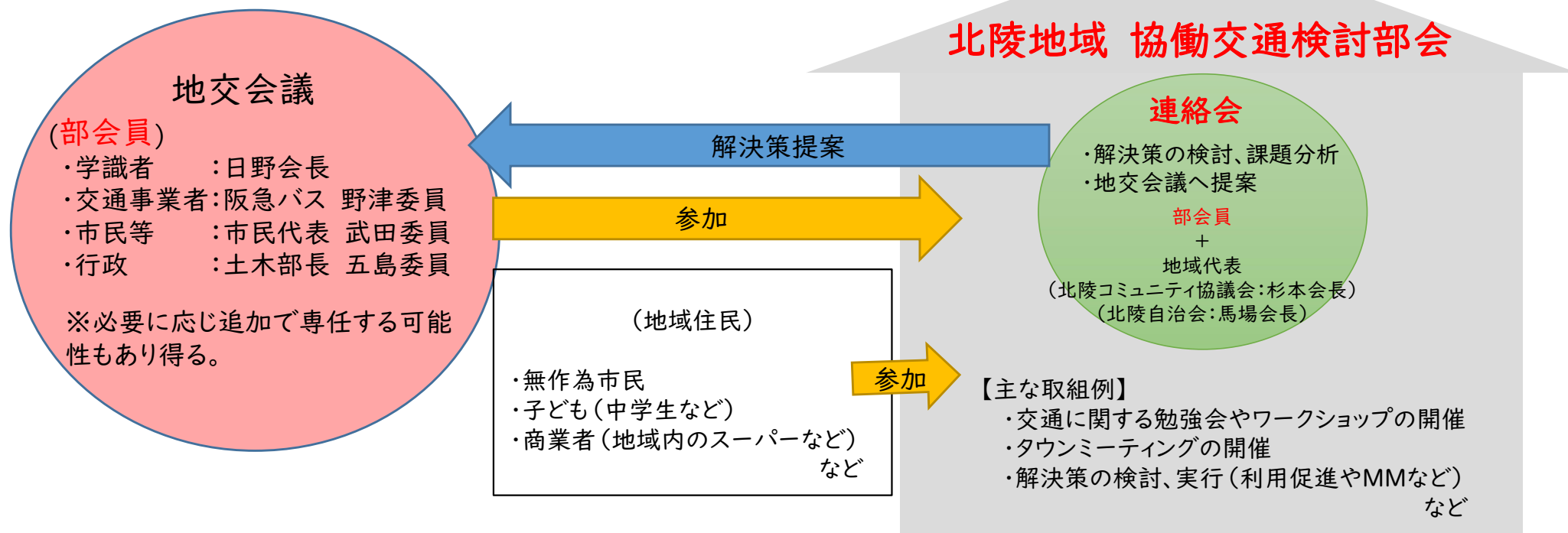
4.今後の流れ

部会で勉強会や住民アンケートなどを実施し、地域内の課題を明確にする。その後、課題解決に向けた取組内容を検討し、実施する。

(参考) 地域協働交通検討部会について



イメージ図



令和 7年 5月 23日

川西市 様

令和7年度



『地域の移動課題対策支援事業』支援候補地区申請書

団体名 (コミュニティ・自治会等)		北陵コミュニティ協議会
代表者名		杉本 勝広
代表者 連絡先	住所	
	電話番号	
	E-mail	
地域としての移動課題について		
<p>2025年5月阪急バスのダイヤ改正により特に朝通勤帯の減便となった。また、秋には再度運賃改定も実施される。</p> <p>北陵地域の公共交通としての地域課題を明確にし、阪急バス様、川西市と課題を共有し課題解決へのあしがかりをつくりたい。</p>		


※申請にあたっては、移動課題対策支援策について協議が調った事項の誠実な実施に努めるものとします。

【提出先】

担当：土木部交通政策課

・郵送：川西市中央町12-1 土木部交通政策課

・メール：kawa0175@city.kawanishi.lg.jp



令和7年度 地域の移動課題対策支援事業 (牧の台地域)

令和8年度以降の
平野山下線・大和団地線のバス運行について

牧の台地域 協働交通検討部会の進捗状況について

【令和7年6月3日（火）】

『令和7年度 第1回牧の台地域協働交通検討部会連絡会』を開催

〈概要〉

1. 部会長の選任

〈主旨〉川西市地域公共交通会議の日野会長を部会長として選任する。

〈主な意見〉特になし。

2. 部会のすすめ方や目的の共有

〈主旨〉部会を設置し、地域・行政・交通事業者・学識者・市民等が連携し課題解決を図る。

〈主な意見〉

- ・現状のサービスを維持するための利用促進と併せて、将来の移動ニーズとそれに合致したサービスのあり方を検討していただきたい。
- ・平日の便数が減便になったあと、経費が1,500万円に収まっているのか知りたい。

3. 目標数値の考え方

〈主旨〉令和8年度以降の目標数値（案）を共有し、意見交換する。

〈主な意見〉

- ・令和6年10月前後の利用者数を見て目標数値を決めた方が良い。
- ・次回の連絡会までに地域で話し合う。
- ・次回、目標数値（案）を提示する。

【出席者】

- ・日野部会長
- ・市
- ・阪急バス
- ・地域代表

牧の台地域 協働交通検討部会の進捗状況について

【令和7年7月15日（火）】

『令和7年度 第2回牧の台地域協働交通検討部会連絡会』を開催

〈概要〉

1. バス運行に係る費用と目標数値

〈主旨〉 令和8年度の目標数値（案）（実利用者数）と、令和6年10月～令和7年4月の実利用者数の共有

〈主な意見〉

- ・ 人件費は上昇トレンドであり、令和8年度のバス運行に係る経費はさらにあがることが予想される。

2. 実利用者数の実績と比較

〈主旨〉 令和5年10月～令和6年9月と令和6年10月～令和7年5月までの実績と比較の共有。

〈主な意見〉

- ・ 通学定期利用者が増えている状況であり、運行時間を夜にずらすと学生への影響が大きくなるので、ダイヤについてはこのまま静観した方がよい。

3. ワークショップ

〈主旨〉 ワークショップの参加者や議題について協議する。

〈主な意見〉

- ・ 現在の課題と将来的な課題を議題とすべき。
- ・ バスの非利用者を集めるのは困難だが、効果的な方法を地域で検討してほしい。

【出席者】

- ・ 日野部会長
- ・ 市
- ・ 阪急バス
- ・ 地域代表

ワークショップの開催について

『大和バスの利用促進について』というトークテーマでワークショップを開催し、バス利用者を維持・増加させるためにどうすればよいか地域住民同士で意見交換を行いました。 ※詳細は参考資料3を参照

【開催日時】令和7年9月5日（金）14:00～16:00

【会場】大和第一自治会館

【参加人数】40名

～ワークショップの様子～

課題の抽出

（議題1）

大和バスによく乗る人、乗らない人の理由

- ・自己紹介（居住地、バスの利用頻度など）
- ・バスに乗る理由、乗らない理由を発表

解決策の検討

（議題2）

バスの利用頻度を増やすための取組

- ・議題1の結果を参考に、効果的な利用促進策を検討



牧の台地域 協働交通検討部会の進捗状況について

【令和7年9月17日（水）】

『令和7年度 第3回牧の台地域協働交通検討部会連絡会』を開催

〈概要〉

1. ワークショップ開催の報告

〈主旨〉 令和7年9月5日（金）に開催したワークショップで出た意見の共有を図る。

〈主な意見〉

- ・ 大勢の方に出席いただき意見をいただいたが、時間も短く議論し尽くせなかった部分もあった。

オフィシャルのワークショップだけでなく、随時、地域でも話し合いを行ってほしい。

2. 牧の台コミュニティ協議会の実施計画について

〈主旨〉 移動課題解決のための実施計画書の作成スケジュール等について共有を図る。

〈主な意見〉

- ・ 令和8年度から取り組む事業を年末年始までにまとめ、コミュニティ内で承認いただきその後、地域公共交通会議に上げて協議することになる。

3. その他

〈主な意見〉

- ・ 地域が全てを取り組むということではないが、本日議論した内容を地域に持ち帰っていただいて検討いただきたい。

【出席者】

- ・ 日野部会長
- ・ 市
- ・ 阪急バス
- ・ 武田委員
- ・ 地域代表

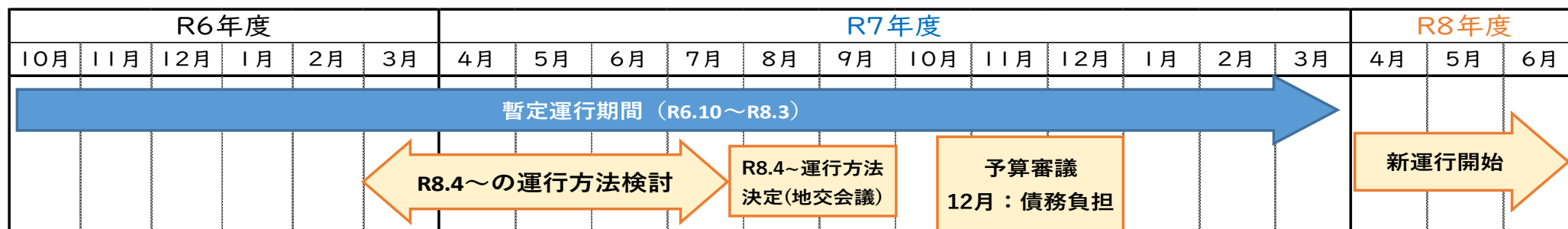
【参考】令和6年度第2回地交会議（R7.3.19）承認事項 令和8年4月以降のバス運行（案）について

<協議事項>

- ・地域と運行方法（便数、目標輸送人員等）について合意することを前提とし、
令和8年度から10年度の運行のため補助金(3年分)を確保し、現在の運行規模を継続。

（参考）令和8年4月以降の運行に向けたスケジュール

- ①令和8年4月以降の運行に向け、**令和7年9月までに運行方法を地交会議で決定する必要がある。**



- ②令和8年4月～令和10年9月までの実績を踏まえ、**令和11年4月以降の運行方法を検討。**

【運行期間の考え方】

第6次総合計画および公共交通計画の計画期間（令和6年4月～令和14年3月）において、既に運行が決定している令和6年度及び令和7年度の運行を除く、令和8年4月～令和11年3月を前期運行期間、令和11年4月～令和14年3月を後期運行期間とし、定期的にバス運行を評価することとする。

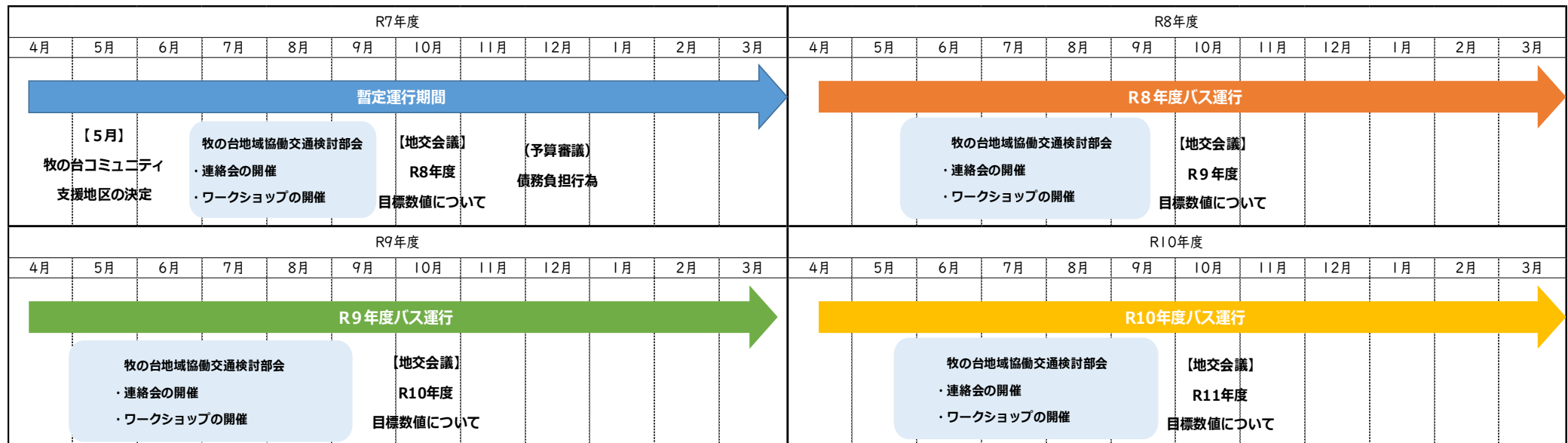
令和8年度以降のバス運行（前期運行期間）について

令和6年度第2回地交会議（R7.3.19）の承認事項に基づき、前期運行期間（令和8年4月～令和11年3月）の3年間の運行にかかる補助金とバス購入（1台分）に対する補助金の補正予算案（債務負担行為）を令和7年12月議会で上程する予定。

補正予算案（債務負担行為）を上程するにあたり

令和8年度のバス運行にかかる経費を算出し、『持続可能な運行に必要な収入と目標数値』を決定する必要がある。（※目標数値は毎年度見直す）

（参考）前期運行期間のスケジュール



【協議】令和8年4月以降の評価指標の変更について

《輸送人員を評価指標にしていたときの課題》

- ・収入金額（運送収入等）から算出される『輸送人員』は、算式が複雑であり、利用実態の把握が困難。
- ・地域住民へは評価指標である『輸送人員』の数値ではなく、『ICデータ（ICカードの実タッチ数。現金利用者を含まない）』の数値のみ提供しており、地域住民が評価指標に対する目標数値の進捗状況を把握することが困難。

《事務局（部会案）》

令和8年4月以降の評価指標を

『輸送人員』から『**実利用者数**』（地域・行政間で統一されたもの）へ変更したい。

$$\begin{aligned} \text{実利用者数} = & \text{ICカードの実タッチ数} + \text{現金利用者の推計} \\ & (\text{PiTaPa・ICOCA・hanica等ICカードや定期券の実タッチ数}) + (\text{現金収入} \div \text{1人当たりの単価}) \end{aligned}$$

◆（参考）バス運行についての令和8年度の予測経費と目標数値について◆

<div><div>人件費：20,926千円 燃料油脂費：4,385千円 その他費用：14,402千円</div><hr/><div>経費合計：39,713千円</div></div>	—	<div>補助金 15,000千円</div>	=	<div>必要収入：24,713千円 実利用者数へ換算⇒114,891人 目標実利用者数：115,000人</div>
--	---	-----------------------------	---	---

(参考) 実利用者数の推移

- ・ 令和6年10月以降の実利用者数の推移は下表のとおり。
- ・ 現状のまま推移すれば目標達成見込みである。

大和団地線 平野山下線	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	合計	年間合計 (※予測)	目標(115,000人) との差
実利用者数(人)	10,612	9,991	9,861	9,087	8,590	9,613	9,888	10,137	10,903	11,533	100,215	120,258	5,258
定期券以外のIC利用者 (実タッチ)	7,240	6,798	6,704	6,148	5,671	6,518	6,654	6,835	7,460	8,013	68,041	81,649	
定期券 (実タッチ)	2,350	2,297	2,225	2,178	2,098	2,105	2,313	2,395	2,476	2,502	22,939	27,527	
推計 現金利用者	1,022	896	932	761	821	990	921	907	967	1,018	9,235	11,082	

年間合計(※予測)は、R6.10～R7.7の平均利用者数から算出

⇒ {100,215人(R6.10～R7.7の合計利用者数) ÷ 10ヶ月} × 12ヶ月 = 120,258人

令和7年度 教員向けMMについて

1. 開催に至った経緯・目的

【令和6年度】

令和6年度より、阪急バスが小学校などの教育現場で使える『副教材』を監修・作成し、
阪急バスが運行している各自治体の小学生
(4・5・6年生)へ配布した。

(課題)

配布するだけになってしまっているのを、
副教材を使って授業を実施してもらえるように工夫をする。



【令和7年度】

(改善策)

副教材を市内小学校の対象学年(1・2・3年生)の全児童へ配布。配布後、実際に授業を実施してもらえるように、以下のような目的で教員向けMMを実施した。

(※市内の基幹交通である能勢電鉄にも協力依頼)

(目的)

① 阪急バス副教材について教員目線で意見交換を行う。

(※ワークショップを開催)

(トークテーマ) どんな授業でつかえそうか? 副教材の中身の改善点など

② 阪急バス副教材と能勢電鉄資料を活用し、実際に授業を実施

阪急バス・能勢電鉄の無料乗車券をプレゼント。(※授業の実施が条件)

実際に公共交通を利用してもらい、公共交通を身近に感じてもらう。



2. 実施概要(結果)

【日時】令和7年8月1日(金) 14:00~16:00

【会場】川西市役所 7階大会議室

【参加者】教員20名(申込23名) (市内17校のうち9校)

久代小: 1名、川西小: 3名、多田小: 1名、多田東小: 6名
緑台小: 1名、清和台小: 1名、牧の台小: 2名、東谷小: 4名
川西養護学校: 1名

近隣自治体5名 猪名川町: 2名 池田市: 1名
宝塚市: 1名 豊中市: 1名

※ワークショップには、阪急バス3名・川西市2名も参加

3. 当日のスケジュール

- 1 開会 本研修の目的と松村先生の紹介
- 2 【講義1】モビリティ・マネジメント教育を学校で実践することの意味
【講義2】能勢電鉄について
【講義3】阪急バスについて

※講義1~3で、なぜモビリティマネジメントが必要なのかを認識してもらってから、ワークショップを行い有意義な意見交換をしてもらう。

3 ワークショップ(参加者: 教員・自治体職員・阪急バス)

- 4 閉会 無料乗車券配布までの流れの説明

講義・ワークショップの振り返り

【講義1】モビリティ・マネジメント教育を学校で実践することの意義

講師：愛媛大学 社会共創学部
学部長 松村 暢彦氏

【講義内容】

モビリティ・マネジメントについて、時代の移り変わりの中でどう学校教育へ関わってきたのか。また、モビリティ・マネジメントと教育の関係性やMM教育がもたらす効果などについて、幅広くご講義いただいた。



モビリティ・マネジメント教育を 学校で実践することの意義

愛媛大学社会共創学部

松村 暢彦

モビリティ・マネジメント教育との関 連付けが考えられる授業

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
社会			◎	○	◎	◎
理科			△	○	△	◎
生活	◎	◎				
家庭					○	○
道徳	○	○	○	○	○	○
総合的な学習の時間			◎	◎	◎	◎
特別活動	○	○	○	○	○	○

https://mm-education.jp/assets/program/mm-edu_tebiki.pdf

教員アンケート結果（一部抜粋）

- ・公共交通機関、確かに自分も最近使っていないと実感しました。子どもたちに身近な乗り物として、公共交通の必要性を学べればと思います。
- ・MMの講義は初めて受講しましたが、少子高齢化する中で、どう維持するのか、コンパクトシティにするのか、パークアンドライドにするのか、別の選択か、考えさせるためにも教育は大切だと思いました。
- ・MM教育ポータルサイトがあることを知らなかったなので、今後の授業等に活用したいと感じました。
- ・聞きやすく、話の内容からも思いが伝わってきた。丁寧な進め方でとてもよかった。

【講義 2】 能勢電鉄について

講師：能勢電鉄 鉄道事業部
企画統括担当 林課長

【講義内容】

実際に授業で活用してもらう、『能勢電鉄資料』の内容について、児童のみなさまに理解してほしい点など要点を絞ってご講義いただいた。



教員アンケート結果（一部抜粋）

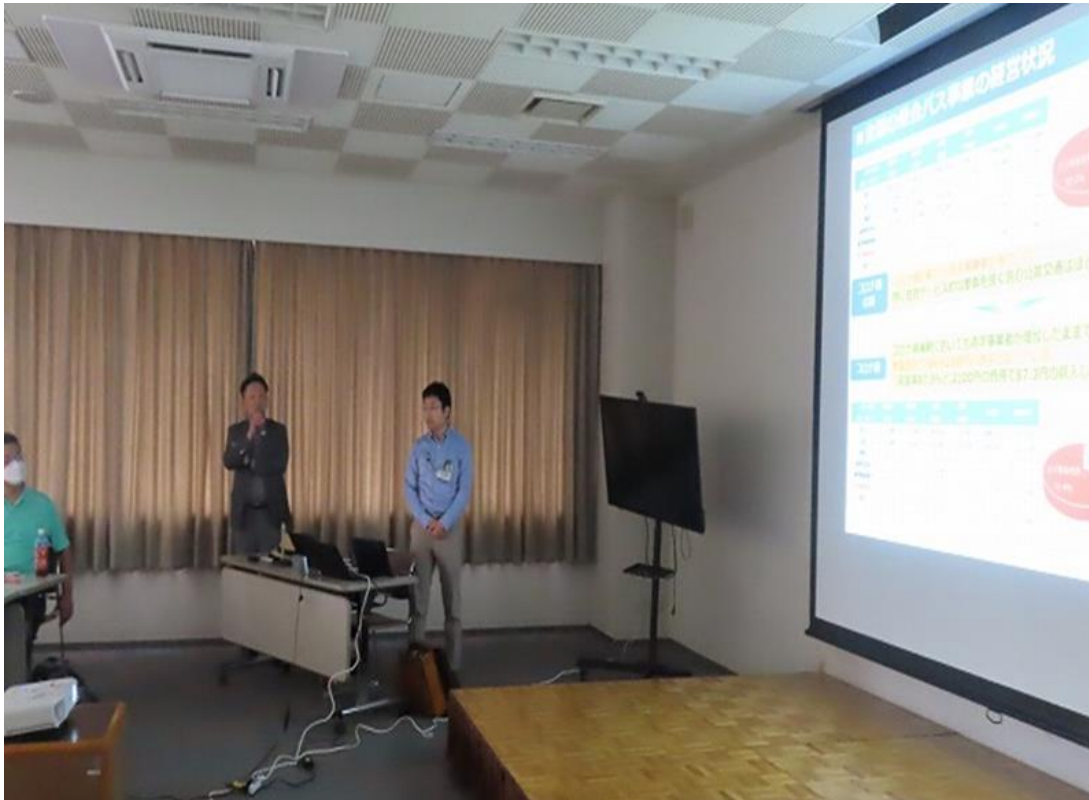
- ・能勢電鉄の実態や課題、電車のよさ（SDGs）など新しい仕組みや取組が知れてよかったです。
- ・授業で使えるような内容のスライドで分かりやすかった。
- ・昨年、企業のSDGsの取り組みの調べ学習をした。ゲストティーチャーとして招き、話を聞く機会があればと思った。
- ・豊富な資料と児童に伝えてほしい要点がはっきりしていてよかった。
- ・すばらしいパワーポイントだった。昔の駅の様子など子供達が驚く様子が想像出来ます。
- ・能勢電鉄で子ども向けの授業をしていることを初めて知りました。
- ・スライドのQRコード等があれば、教室の電子黒板に映し出せるのでありがたいです。
- ・電車のマナーがよく分かる動画があると良いかなと思います。

【講義3】阪急バスについて

講師：阪急バス 営業企画部 計画課
田中課長 上畑係長

【講義内容】

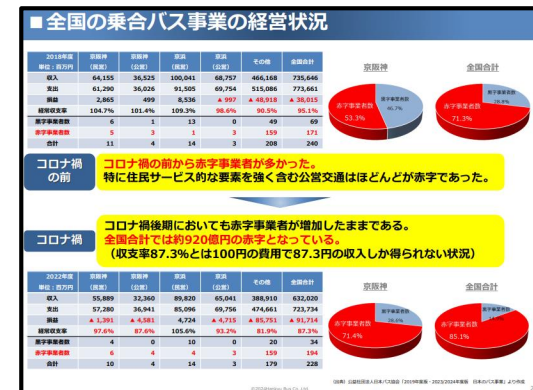
阪急バスやバス業界が抱える課題や現状について数値やグラフを用いながら説明し、モビリティ・マネジメントの必要性や阪急バスが実施しているモビリティ・マネジメントについて、ご講義いただいた。



事業環境について

阪急バス株式会社
自動車事業本部 営業企画部 計画課

2024年12月



教員アンケート結果（一部抜粋）

- ・現状を知り、今後利用者となる子どもたちにどのように伝えていけばよいのか考えるきっかけとなりました。
- ・資料がすごく詳しく時間があるときにゆっくり読みたいです。
- ・阪急バスユーザーなので、存続の危機にドキマギしました。
- ・阪急バスの現状を全く知らず、今回初めて知ることが多かったです。お忙しいとは思いますが、ぜひバスが学校にきてもらえると嬉しいです。
- ・貸し切りバスの代わりに、事前連絡したら増便して対応してもらえたりすると、より利用しやすいかと思いました。
- ・学習でもつかえる児童用スライドもあると2学期以降の学習でも使えるなと感じました。

ワークショップについて

講師：松村先生

【ワークショップの内容】

阪急バス副教材について、教員・自治体職員・阪急バス社員で5人×6グループ作り、テーマに沿った意見交換を実施。

テーマは以下のとおり

テーマ1：どんな授業で副教材がつかえそうか。

テーマ2：よりよい副教材にむけた教員目線の指摘

↓グループ分けは以下のとおり↓



ワークショップの様子



【STEP1】

松村先生から

ワークショップの説明



【STEP2】ワークショップ(意見交換)



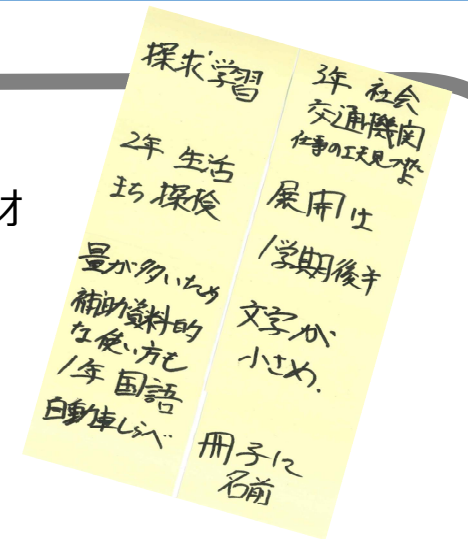
【STEP3】ワークショップで出た意見の発表



テーマ1：どんな授業で副教材がつかえそうか。

ワークショップで出た意見（一部抜粋）

- ・ 地元を知る授業の際に、移動手段を知るという意味で「阪急バス」を知る教材
- ・ 遠足の前の指導
- ・ 以前バスを追いかける授業を行った（バス停を見つける校区めぐり）
- ・ まち探検、マナー授業、校外学習の前に組み込む
- ・ 職業体験や仕事について調べる学習があるので、そこで授業できそう
- ・ 「昔の人の暮らしを学ぶ」という授業があり、そこでバスの進化を関係付けて授業できないか



～具体的な授業～

- ・ 1年生 国語 「じどう車しらべ」
- ・ 2年生 生活 「まち探検」
- ・ 3年生 社会 「交通機関」「わたしたちの川西」
- ・ 3年生 道徳 「社会のルール」
- ・ 4年生 「バリアフリー関係」の授業
- ・ 3・4・5・6年生総合 「SDGs」の授業

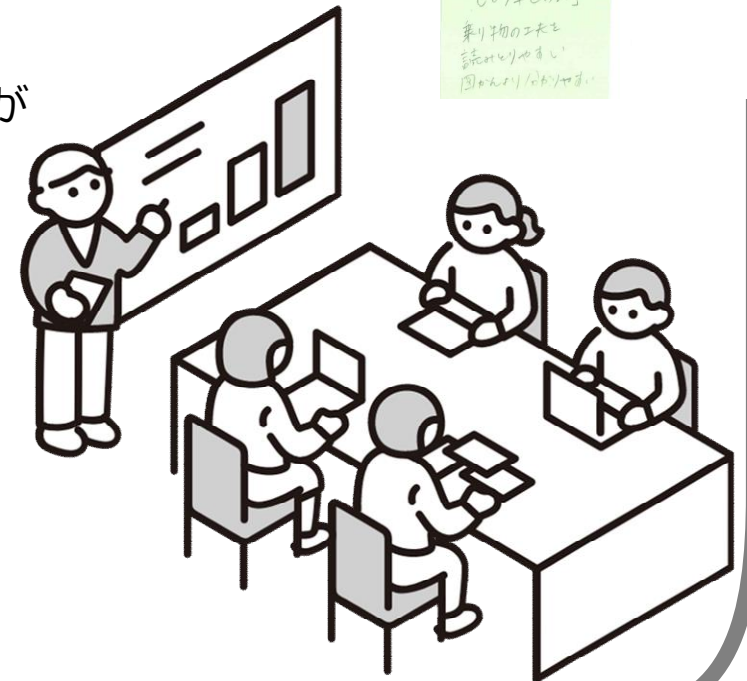
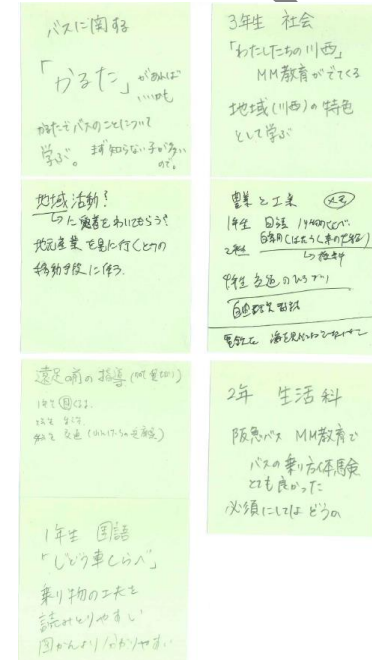
※授業に組み込むと教員の負担増になるため、自由研究で活用するのもあり。



テーマ2：よりよい副教材にむけた教員目線の指摘

ワークショップで出た意見（一部抜粋）

- ・文字が多く、小さい。
- ・クイズとかあった方がいい。生徒が飽きてしまう。
- ・クイズの素材やクイズを何パターンかHP等でダウンロードできるようにする。
- ・ゲーム的なものがあればいい（スゴロク？運賃を忘れたら1回休みとか）
- ・P2.3 ヒミツを提示してほしい（ヒミツを探して説明するだけで1時間終わってしまう）
- ・何編と区切るのはいかが。（「おでかけ編」「バス車両編」「乗り方マスター編」とか
⇒区切りでワークシートがあるとありがたい。
- ・文字だけだと児童は食いつかない。
⇒QRコードを読み込むと、動画（ショート動画が良い）や3Dバスが見れるなどしたら、児童の頭に残りやすい。
- ・情報量が多い（教員用でこの冊子を使う方がいい）
- ・文章・単語の意味が理解できないのでは？
- ・1学期終わり頃の展開がタイミングとしてはいい。
- ・冊子に名前を書くところがあれば大切にしてくれる。
- ・授業するならパワポデータや画像データがほしい。
- ・子どもたちにとって視覚的に分かりやすい副教材。



教員アンケート結果・感想（一部抜粋）

- ・このような研修がなければMM教育を意識することはなかったので、良かったと思います。
- ・副教材について、意見を出し合うのはとても良かったです。又、続けてほしいと思いました。
- ・副教材の完成度の高さに驚きました。阪急バスの担当の方が素朴な疑問にも丁寧に答えてくださり楽しく学ぶ事ができました。来年度低学年担任の先生にすすめたいと思いました。
- ・教員とバス会社の方と直接お話できる機会はとても大切だと思います。
- ・資料がしっかりしていたので、意見が出しやすかったです。
- ・冊子を作られた方とお話ができ、意図をよく理解することができました。
- ・さまざまな学年で使用できそうなすてきな教材でした。

Q 来年度もこのような研修があれば参加したいと思いますか。

思う：14名 どちらともいえない：2名 無回答：3名

アンケート結果からの考察

- ・モビリティ・マネジメントの概念を知らない教員もいたため、まずは教員の方にMM教育の重要性や事業者の現状について知ってもらう必要がある。
- ・能勢電鉄や阪急バスのMM授業の取組について、今後継続して周知する必要がある。
- ・ワークショップでは、教員や事業者、自治体職員が同じグループで話し合うことで、各視点から副教材について考えることができ、よりよい副教材の作成に向けて効果的な意見を集めることに繋がった。

施策の目的 ⇒ 川西市内を運行する公共交通（電車・バス）の利用者の増加

無料乗車券を配布することで、公共交通の利用頻度が少ない又は利用したことがない方に公共交通の利用機会を提供し、『公共交通は便利で使いやすい』と体感してもらい、今後の移動手段の一つとして公共交通を選択・利用してもらう。

《実施概要》

日時：4月6日（日）9時45分～14時30分

場所：キセラ川西せせらぎ公園（本部横）

配布枚数 ※各400枚ずつ準備

- ・阪急バス（197枚）
- ・能勢電鉄（256枚）

アンケート回答者数（281名）

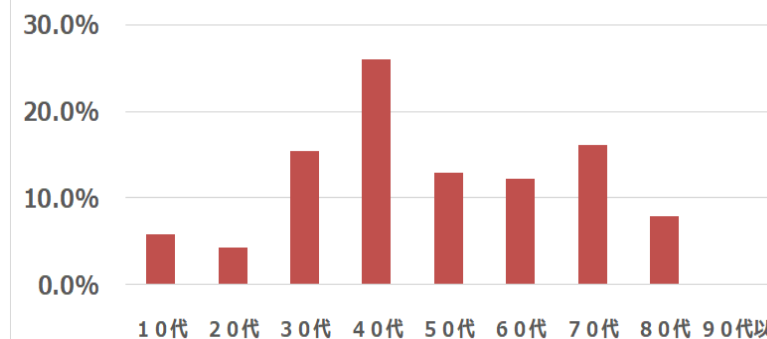
Q1.回答者の住所

川西市内	川西市外
80.8%	19.2%

Q2.イベント来場手段

電車	バス
59.3%	40.7%

年齢分布



Q3.年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
5.7%	4.3%	15.3%	26.0%	12.8%	12.1%	16.0%	7.8%	0.0%

Q4-1.電車の利用頻度 (Q2のイベントへの来場手段が**電車の方のみ**回答)

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
60.8%	28.2%	7.7%	2.8%	0.6%

電車の利用頻度が少ない理由 (1週間に1回以上を選択した人以外)

- ・車で移動することが多い
- ・自宅周辺で用事が全てすむ
- ・通勤で使わない
- ・遠出することがない
- ・駅が遠い
- ・電車賃が高い
- ・出かける頻度が少ない

Q4-2.バスの利用頻度 (Q2のイベントへの来場手段が**バスの方のみ**回答)

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
53.2%	25.0%	10.5%	8.1%	3.2%

バスの利用頻度が少ない理由 (1週間に1回以上を選択した人以外)

- ・車で移動することが多い
- ・自宅周辺で用事が全てすむ
- ・出かける頻度が少ない
- ・通勤で使わない
- ・運賃が高い
- ・ベビーカーがあるので、利用を躊躇う
- ・子どもを連れて乗るのが大変
- ・時間が前後する

Q5.イベントに来場した理由 ※複数回答可

無料乗車券の配布があるから	知人にさそわれたから	通りがかり気になったから	イベントが楽しそうだったから
20.2%	12.4%	5.5%	61.8%

Q6.無料乗車券を配布することを何で知りましたか。 ※複数回答可

広報紙	HP	SNS	チラシ・ポスター	当日イベントに来て知った。
31.8%	9.1%	7.1%	20.5%	31.5%

Q7-1.電車の利便性

とても便利	便利	少し不便	不便
58.6%	37.6%	3.9%	0.0%

Q7-2.今後も電車を利用しようと思いますか。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
70.2%	29.3%	0.6%	0.0%

※電車を今後も利用しようと思わない・思わない理由
・車の方が便利のため

Q8-1.バスの利便性

とても便利	便利	少し不便	不便
47.6%	38.7%	12.9%	0.8%

Q8-2.今後もバスを利用しようと思いますか。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
56.5%	38.7%	4.8%	0.0%

※バスを今後も利用しようと思わない・思わない理由
・車の方が便利 ・移動が遅い ・本数が少ない

Q9.公共交通に関する意見や改善してほしい点

阪急バス

【意見】

- ・いつも利用していて、とても便利です

【要望】

- ・池田から川西までのバスを復活してほしい
- ・定期券のメリットが少ない（料金が安い）
- ・深夜バスの見直し（24時からにしてほしいなど）
- ・電気バス、ノンステップバスを増やしてほしい
- ・能勢電鉄と合わせた時刻表にしてほしい
- ・時間通りに来てほしい
- ・運行本数を増やしてほしい

能勢電鉄

【意見】

- ・乗り心地がいい
- ・いつも快適でとても感謝しています
- ・いつも電車が綺麗です

【要望】

- ・便数を維持してほしい
- ・終電をもっと遅くしてほしい
- ・土日回数券を復活してほしい
- ・ベビーカースペースがあればうれしい

公共交通全体

【意見】

- ・便利で安い
- ・これからも頑張してほしい

【要望】

- ・料金が安い
- ・高齢者割引制度をつくってほしい
- ・なくならないでほしい

無料乗車券の配布があるからイベントに来場した人の割合

Q4-1.電車の利用頻度（Q2のイベントへの来場手段が電車の方のみ回答）

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
110	51	14	5	1
60.8%	28.2%	7.7%	2.8%	0.6%

※無料乗車券が配布されるという事前周知によりイベントへ来た人

17	14	3	0	0
15.5%	27.5%	21.4%	0.0%	0.0%

Q4-2.バスの利用頻度（Q2のイベントへの来場手段がバスの方のみ回答）

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
66	31	13	10	4
53.2%	25.0%	10.5%	8.1%	3.2%

※無料乗車券が配布されるという事前周知によりイベントへ来た人

19	6	6	2	1
28.8%	19.4%	46.2%	20.0%	25.0%

【利用頻度別】 阪急バス無料乗車券の利用率

利用頻度が少ない人が
無料乗車券を利用してくれたか？

無料乗車券利用率 ※能勢電鉄は利用したかどうかは
確認できない

Q4-2.バスの利用頻度

(Q2のイベントへの来場手段が**バスの方のみ**回答)

	1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
回答者数	66	31	13	10	4
回答割合	53.2%	25.0%	10.5%	8.1%	3.2%

利用数	37	17	9	6	3
利用割合	56.1%	54.8%	69%	60%	75%

考察

- ・利用率はR6年度から大きく改善された。(R6年度55%⇒今回77%)
- ・利用率は77%だったが、普段バスの利用頻度が少ない人(1週間に1回以上を選択した人以外)は35組
だけであり、『普段利用頻度が少ない人に対しバス乗車機会を提供する』という効果は限定的であった。

⇒利用頻度が少ない人へ事前周知の方法を工夫し、利用枚数の増加をめざしたい。

(チラシ・ポスターの改善など)

牧の台地域協働交通検討部会ワークショップ開催結果について

【開催日時】 令和7年9月5日（金）

14:00～16:00

【会場】 大和第一自治会館

【参加人数】 40名

※参加者に『大和バスの利用頻度』のアンケートを実施

A: 1週間に1回以上 B: 1ヶ月に1回以上 C: 乗らない

大和西（7名）

(A: 2名・B: 2名・C: 3名)

1丁目 2名

(B: 1名・C: 1名)

2丁目 0名

3丁目 1名

(C: 1名)

4丁目 0名

5丁目 4名

(A: 2名・B: 1名・C: 1名)

大和東（33名）

(A: 10名・B: 16名・C: 6名)

1丁目 6名

(A: 3名・C: 3名)

2丁目 11名

(A: 3名・B: 6名・C: 2名)

3丁目 1名(※不明)

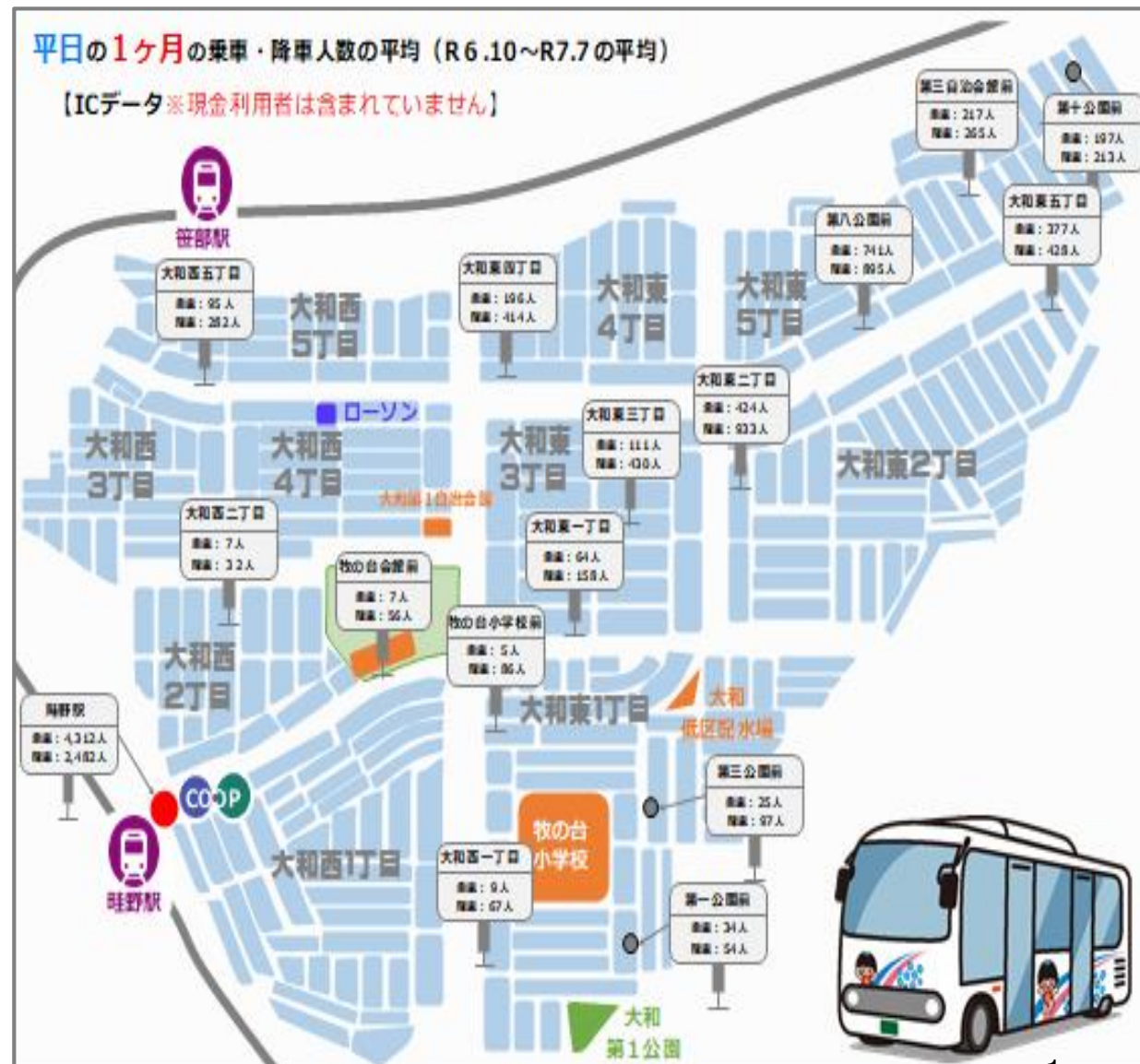
4丁目 2名

(B: 2名)

5丁目 13名

(A: 4名・B: 8名・C: 1名)

●（参考）大和団地線の地図



ワークショップでの意見

～ワークショップの流れ～

4つの班へチーム分け (各班10名程度)

- ・参加者40名を各班へ振り分け

課題の抽出

(議題1)

大和バスによく乗る人、乗らない人の理由

- ・自己紹介(居住地、バスの利用頻度など)
- ・バスに乗る理由、乗らない理由を発表

解決策の検討

(議題2)

バスの利用頻度を増やすための取組

- ・議題1の結果を参考に、効果的な利用促進策を検討

(議題1) 大和バスによく乗る人・乗らない人の理由の意見まとめ

大和バスによく乗る人の理由

- ・飲み会の帰宅時
- ・バスに乗らないと駅方向にいけないから
(お店が駅周辺に集まっている)
- ・登り坂がきついから帰りに乗る
- ・電車での遠出・通院・お稽古時に利用
- ・車、免許なし
- ・バスは大和に必要と考えるため、無理しても週2回は乗るように心がけている

大和バスに乗らない人の理由

- ・1時間に1本しかないところもある
- ・土・日・祝日にバスがない時間帯がある
- ・最終便が早く通勤に使えない
- ・便数が少ない・運賃が高い・バス路線が少なく利用出来ない
- ・停留所間が長い・バス停までが遠い
- ・バスが小さくて、バス停に来た時には既にいっぱい乗っている
- ・駅と逆方向に行く目的がない(駅方向に行く人が多く、利用に偏りがある)
- ・10分以上待つ場合は歩く(歩く方が早い)
- ・クルマの方が便利(子どもを何人も連れている場合はクルマを利用する)
- ・車を運転するので時間に束縛されず自由
- ・駅が近いので歩く(ウォーキングをしたい)

(議題2) 利用頻度を増やすための取組(案)のまとめ

1.子どもを対象にした利用促進

子どもをターゲットにすることで、付き添いの大人も巻き込む

- ・子どもの絵を車内に展示
- ・子どもを無料にする
- ・乗って楽しい子どもの車内放送
- ・学校行事で使う
- ・こども園の送迎
- ・東谷中学校（夏の部活）での利用

2.バス利用者への特典付与

- ・乗車時にスタンプ押してもらい、ためるとなにかもらえる
- ・利用したら「笑顔ミライちょきん」のポイントを付与
- ・バスの利用回数に応じて無料乗車券を自治会・コープ等が配る（10回乗ったら1回無料）
- ・コープ、銀行でバス利用者にスタンプ（景品又は割引・市の補助）
- ・1ヶ月何回以上乗ればコープの商品券がもらえるような制度
- ・自治会からの補助金

要望等

- ・便数を増やす
- ・土・日・祝日は1時間に1便にしてほしい
- ・土曜日は9時台が2便あるから、11時に1便走らせてほしい
- ・平日は11時と16時に増便してほしい（買い物のため）
- ・夜の便が20時30分最終なので、22時30分までにしてほしい（通勤に使えない）

3.イベント開催や施設設置

バス利用者の目的地を畦野駅だけではなく、各所につくる。

- ・東5丁目、第3自治会館、第10公園で
バスの時刻に合わせた大きなイベントをする
- ・奥の方に買い物を出来る施設を！
- ・大和ハウス所有地に集客施設・コープ移転
- ・魅力あるまちづくり（自治会・福祉・社協活動）
⇒人口増⇒バス利用増

4.その他意見

- ・バスロータリーへの自家用車の乗り入れを禁止する
- ・幼稚園バスのようにぐるぐる回る地域バスを走らせる
- ・デイサービスのバスを昼間に走らせる
- ・シャトルバス方式で運行（電車に合わせて上まであがる）
⇒（ダイヤ以外の利用）予約制にする（雨天時・イベント時増便など、臨機応変な運行）
- ・バスダイヤに合わせた生活を考える（病院・美容院予約・自治会活動の開始時間）

- ・山下駅を経由してほしい
- ・バスを大きいバスにしてほしい
- ・バス停を増やしてほしい
- ・ダイヤ・コースの再検討
- ・高齢者にとってバス停の発車時刻が分かりにくい
- ・電車が着いたらバスが待っている状態だと乗りやすい
- ・38便に戻して乗客増をめざす時間が欲しい